

## 「施設看取りのための体制作り」

遠藤健史

【目的】西ノ島は人口3,150人、高齢化率39%で、施設看取りが全体の19.8%を占め、全国平均の4倍である。特養と養護老人ホームがあり、長期入所者は各50名である。常勤看護師は特養で4人、養護老人ホームで2人である。1か所ある病院の医師が週に1回定期健診を行う。

西ノ島の看取り状況を分析し施設看取りのための体制作りについて考察する。

【方法】施設職員への聞き取りと先行研究を参考にアンケートを作成した。複数回答可で、職員全員に行った。

【結果】臨終対応経験が無い職員は37%で、病院受診すべきかの判断に不安を感じていた。22%の職員が看取り介護をあまり行いたくないと答え、家族への対応に不安を感じていた。看取り介護を行う意義は一緒にいた人と最期を過ごせるという回答が多かった。施設看取りのために必要な事は家族と定期的に連絡を取り合う事や医師、看護師とすぐに相談できる事という意見がみられた。

【結論】施設看取りを行うには、①施設、病院、入所者とその家族が、今後の方針に納得している事、②担当職員が施設内や病院と24時間相談できる事、③臨終時の様子を職員内で振り返る事が重要と考える。